

— 設備保全の情報共有・交流会 —

北海道地区モノづくり・保全研究会

<https://info-jipm.jp/f/hokkaido/>

における活動レポート



ものづくり道場・安全危険体感コーナーの見学（2025年度第1回 会場：トヨタ自動車北海道株式会社）

北海道地区モノづくり・保全研究会ってなに？

「設備保全」の業務は、「設備をいつでもロスなく稼働させる」ことが本来の役割。

その実現には、故障をはじめとしたロスの原因を見つけて、未然に対策を行なうことが重要です。しかしながら、自社で得た知見だけでは、なかなか対策が難しい場合も。。

北海道機械工業会と日本プラントメンテナンス協会では、北海道地域の各社様の情報交換、情報共有の場をご提供することを目的に、2022年度から「北海道地区モノづくり・保全研究会」を開催しております。

日頃の困りごとの解決や、他社の取組み事例を知りたい方は、この機会にぜひご参加いただき、参考となる情報を自社で活かしてみませんか？
 当会会員企業の方は参加無料ですので、お気軽にご参加ください



研究会概要

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備管理・保全に関する情報交換ならびに相互研鑽 ● 設備管理、保全、モノづくり全般について先進企業の取組み紹介 ● メンバー企業の工場見学 など
参加対象	<ul style="list-style-type: none"> ● 設備保全、設備管理全般の管理者およびご担当の方 ● 人材教育の企画、実施のご担当の方
開催頻度	● 2回/年を予定（2025年度）
年会費	<ul style="list-style-type: none"> ● 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 会員価格：無料 ● 一般価格（上記以外）：¥33,000-/名

2025年度第2回の開催は、
 現在調整中です！
 開催日程・内容が決まり次第、
 WEBサイトでご案内します！

北海道地区モノづくり・保全研究会(2025年度第1回)の活動レポート

研究会活動の紹介(2025年度第1回活動レポート)

テ - マ	2025年度第1回 北海道地区モノづくり・保全研究会 ～トヨタ自動車北海道株式会社の改善活動と人財育成～	
開 催 日	2025年7月24日(木)	
開 催 場 所	トヨタ自動車北海道株式会社 (北海道苫小牧市字勇払145-1)	
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● トヨタ自動車北海道 株式会社 の改善活動と人財育成 <ul style="list-style-type: none"> ・工場見学(一般コース) ・ものづくり道場見学(からくり中心に安全危険体感コーナー含む) ● 見学後の質疑応答、ディスカッション 	

参 加 者

北海道地区モノづくり・保全研究会(東北地域保全研鑽会含む)会員:20名(17社)

開 催 報 告

- 2025年7月24日(木)、北海道苫小牧市にて、北海道地区モノづくり・保全研究会(2025年度第1回)を開催しました。会場は**トヨタ自動車北海道株式会社**。同社の製造現場を舞台に、**保全活動や人財育成に関する先進的な取り組みが紹介**され、参加企業間の学びと交流が深まりました。
- 今回の研究会には、北海道の企業に加え、東北地域で活動する「東北地域保全研鑽会」のメンバーも多数参加。地域を越えた企業同士の交流が実現し、普段接点の少ない参加者同士が互いの課題や取り組みを共有する貴重な機会となりました。
- 当日は、**トヨタ自動車北海道による改善活動を促進する教育施設(ものづくり道場)の紹介と工場見学**が行われました。特に注目を集めたのは、「**ものづくり道場**」「**からくり改善**」「**デジタル塾**」「**安全体感VR**」など、**教育と改善を融合させた取り組み**です。参加者は、現場で働く従業員が自ら改善を提案・実行する姿勢や、危険体感を通じた安全教育の工夫に強い関心を寄せていました。
- 「**からくり改善**」では、低コストかつ創意工夫に富んだ改善事例が多数紹介されました。特に治具や補助具の自社製作による効率化に対して高い関心が寄せられましたが、今回はそれに加え、**デジタル技術との融合**にも大きな関心を集めました。SiOやRaspberry Piなどの小型デバイスを活用した自動化・モニタリングの事例が紹介され、**従来の手作業中心の改善にデジタルの視点を加えることで、さらなる生産性向上と保全精度の強化**が図られている点が印象的でした。
- また、「ものづくり道場」内にはプログラミングが可能な専用ブースが設けられており、**従業員が自ら制御ロジックを構築できる「デジタル塾」**も紹介されました。こうした環境整備により、現場の改善力とデジタルスキルの両立が可能となり、**次世代の保全人材育成にもつながっている**ことが強調されました。
- 「**安全危険体感**」では、巻き込まれや感電といった疑似体験を専用設備で経験したほか、**VR機器を用いた最新技術での体験も**実施されました。ゴーグルやグローブの着用に加え、体験ステージへの登壇を通じて**切創や高所からの墜落といったシミュレーションがリアルに体験**できました。災害事例を仮想体験することで安全意識の向上を図る取り組みが行われ、初体験の参加者からは「非常に印象に残った」「自社でも導入したい」との声が寄せられました。(筆者は、VRによる高所墜落体験をさせていただきましたが、正直2回目は遠慮したい経験でした。体験目的には合致していますが…)。
- アンケート結果では、満足度に関して「大変満足」「ちょうど良い」との回答が多数を占め、開催時間や内容のバランスにも好意的な意見が目立ちました。一方で、「保全活動の事例をもっと深掘りしてほしい」「質問時間がやや短かった」といった要望もあり、次回以降の企画に向けた貴重なフィードバックとなりました。
- 今回の研究会では、地域を越えた企業間の交流と、実践的な学びを得る場として大きな成果を上げました。今後も、**北海道・東北両地域の連携を深めながら、モノづくり・保全の研鑽と人財育成を支援する場**として継続的に開催していく予定です。

(記: JIPM 奥富)



北海道地区モノづくり・保全研究会にご興味ある方は、お気軽にお問合せください
TEL: 0120-451-466 (または03-6865-6081) E-mail: FUKYU@jipm.or.jp